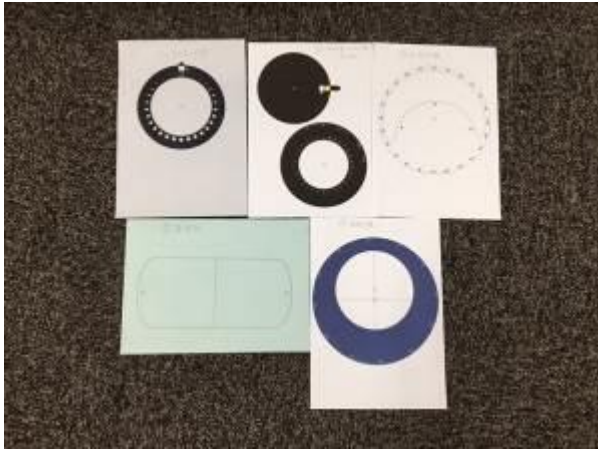
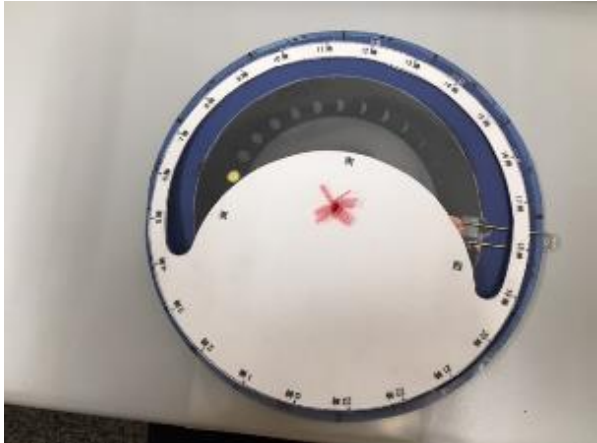


教科	理科	「月の満ち欠け」早見盤
		 完成品
目的	月齢と夜空の観察時にどの方向に見えるか自分で調べられるようにする。	
取り組み内容	・入院時、理科の観察学習は、部屋の向きや活動の制限により実施することが難しい。 ・星座版のように月の形は太陽暦と一致せず毎月、毎年変わっていく。ある日の月の形を知るためには月齢カレンダーを更新し続けなければならない。4 学年時の月の満ち欠けの学習で試行錯誤している状況である。 ・この状況を動画ではなく児童が操作することにより、その日の月齢と何時にどの方向に見えるかということが理解できるものを探した。 ・奥州宇宙遊学館の「月の満ち欠け早見版作成方法」が適していると思われたので制作した。 ・工程は簡単であるが、一部透明のフィルムシートに印刷するパーツがある。クリアファイルにコピーをすると代用することができた。また鳩目を使って連結しているが、身近になかったためストローに切り込みを入れて代用した。 ・満月年盤＋日付年盤は一年に一度更新されており、差し替えが可能である。 この場合鳩目よりストローのほうが日付年盤のみを差し替えることができるので効率的である。 ・組み立て図及び方法も下記サイトに丁寧に記されている。 ・http://uchuyugakukan.com/ 月の満ち欠け早見盤作成方法	